

もゆは日 のかじ本 づりまの くのり鉄 り地をづ 好 のに物 精は語り 神日るの が本一 息のた グ V

鉄」。

鉄の道文化圏

安来·奥出雲·雲南

........

ヤマタノオロチ神話の舞台、斐伊川が流れる中国山地では、 古来より「たたら製鉄」による鉄生産が行われ、最盛期に は全国シェアが約8割に。かつての中心地、奥出雲・雲南・ 安来エリアでは今もたたらの技術や歴史、文化が息づき、 2016年、日本遺産に認定されました。

日本遺産

港安来港が発祥地との説も。

「出雲國たたら風土記」



「たたら製鉄」とは、砂鉄と木炭をもとに純度の高い鉄類を作 り出す日本古来の製鉄法。近代製鉄の影響で、他の地では途 絶えましたが奥出雲町で継承。日本刀の素材となる「玉鋼」を 生産しています。また砂鉄採取で切り崩された山の跡は棚田と なって仁多米や出雲そばを育み、民謡「安来節」は鉄の積出

映画「もののけ姫」の



菅谷(すがや)たたら山内(さんない)はたた らの生産施設「高殿(たかどの)」を中心につくら れた集落。映画「もののけ姫」の"タタラ場"のモ チーフになったといわれています。

たたらや日本刀に関する



日刀保たたらや日本刀に関する展示を行う奥出 雲たたらと刀剣館。地元で作刀を続ける小林 刀匠の作刀鍛錬の実演も見ることができます。 (実演は毎月第2日曜日、第4土曜日)

製鉄に関する



鉄の歴史や技術、鉄の役割について展示する鉄 の歴史博物館。たたら復元操業の記録映画「和 鋼風土記」はたたらの全貌が分かる貴重な映像。

鉄の産業を



江戸時代、鉄の積み出し港で栄えた安来港近く にある和鋼(わこう)博物館 鉄の歴史ミュージ アムでは、日本の製鉄技術の変遷や匠の技、流 通経路などを豊富な資料で展示紹介しています。

製鉄・冶金に携わる





たたら製鉄を伝えた神様をまつる金屋子神社 は、全国に点在する金屋子神社の総本社。 参道の石燈篭や社殿の木彫りなど見どころも随

島根の代表的な



鉄を運搬する様子が謡われる安来節にのり、コミ カルな動きの「どじょうすくい踊り」を見ることがで きる安来節演芸館。(安来市)

今も息づく古代の製鉄法 奥出雲町大呂の日刀保たたらはたたら製鉄が 行われる全国唯一の操業所。技術の継承と 日本刀の材料生産を目的に、年に数回、操



業されています。

MAP J-4

全国で唯一、操業が続く 日刀保たたら(非公開)(奥出雲町)

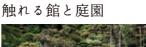
鉄師とはたたら製鉄の経営者。田部家、櫻井家、絲原家は松江藩三大鉄師といわれていました。

藩主が愛した名園に



松江藩の歴代藩主が訪れた櫻井家住宅。七代 藩主が「岩浪」と命名した風雅な庭(国指定名勝) が広がっています。隣接する可部屋 成集舘では 同家の貴重な資料を展示。

たたらと日本文化に





絲原記念館は松江藩の鉄師絲原家に伝わる資 料を展示する資料館。隣接する庭園は出雲地方 の特色が見られ、平成30年6月に国の登録記念 物に指定されました。

名作「砂の器」の舞台

亀嵩駅や ヤマタノオロチ伝説

ゆかりの地にもとまるにも

圧倒される



写真提供:(公財)日本美術刀剣保存協会

吉田町は、松江藩鉄師頭取・田部家のもとで栄え た「企業城下町」。町の中心に整然と立ち並ぶ風 格あるなまこ壁の土蔵群が当時の繁栄ぶりを物 語っています。

雄大な自然の中を疾走 トロッコ列車「奥出雲おろち号

緑の中を走り抜け、自然とひとつに。

奥出雲の山間を走り抜けるトロッコ列車「奥出雲 おろち号」はレトロな駅舎、スイッチバックと見所 満載。ご当地グルメの車内販売も人気。



運行期間: 4月~11月の金曜、土曜、 祝日、GW、夏休み、 紅葉シーズンなど ※変更の可能性あり 要予約(全席指定)/

1か月前よりJR駅で購入可 重転区間:通常(木次駅~ 備後落合駅(各駅停車) **听要時間:**片道約2時間半

自然に囲まれ、 季節を感じながら走る トロッコ列車「奥出雲おろち号」▶

